

良いものは、いつもガラスびん。
昔も、今も、これからも。
やさしい暮らしのそばに、ガラスびんがあります。

洗ってつかう。
砕いてつかう。
何度でも、何度でも。
いま、ガラスびんはとも注目をされています。
とてもエコロジーな素材であることに加え、
環境に配慮した先進の技術が、
たくさん可能性をつくりだし、
商品を開発する人も、また、それを購入する人も、
ガラスびんを熱い視線で見つめているのです。
日本ガラスびん協会は、今年も、ガラスびんデザインアワードを開催しました。
4名の審査員による厳正な審査により、
2007年の優れたガラスびんが決まりました。



2007年 ガラスボトルデザイン 最優秀賞決定。

ガラスボトルデザイン 最優秀賞 日清オイリオグループ株式会社 「出雲の国の向日葵油」

「ガラスびんの形状そのものがとても美しく、それにより中身が引き立っている」として、審査員4氏の評価が一致して最優秀賞に選ばれました。「ラベルは小さくまとめ、一目だと中身が何かかわからないが、ガラスびんの半型が向日葵油を具現化しているようで美しい。また製品の質の良さや自信がうかがえる」として、最優秀賞という評価につながりました。

審査委員長 内田 繁 (インテリアデザイナー)



ガラスびんは、私たちの生活にとっても身近な存在です。その分、消費者の意識やニーズが反映されやすく、今回のアワードでも、素朴でおだやかな、どこか落ち着くようなデザインが多く見受けられ、ガラスびんが時代を映す鏡になっていることを改めて感じました。受賞した作品は、そうした傾向をよく現していると思います。

審査員 益田 文和 (インダストリアルデザイナー)



ガラスびんには、中身の色や素材の魅力が効果的に見せられるというメリットがあります。今年の応募作品には、中身もデザイン表現の要素のひとつとしてとらえ、一体化したものが多かったように感じます。また、エコロジーを強く意識したものが多かったことも印象に残りました。

審査員 佐藤 卓 (グラフィックデザイナー)



偶然にも学生時代の思い出がよみがえるガラスびんが出品されていました。当時のグラフィックそのままなのに、時代にあわせ、エコロジーなガラスびんになっていました。手に持った感覚など、ガラスびんは記憶に残りやすい素材であることを確認すると同時に、これからは、エコロジーな社会と共存できるガラスびんづくりが進んでいくことを、強く感じました。

審査員 船山 直子 (クワッサン副編集長)

ガラスびんのデザインは、その形状だけでなく、びん自体の素材の多様さ、ラベル、キャップといった要素がひとつになることで、成り立っていることを再認識しました。また、全国的に食べ物が平準化され、各地方の特性があまり感じられなくなっている中で、ラベルのデザインが、その土地の空気を運んでくれる作品があり、嬉しく思いました。



ガラスボトルデザイン 優秀賞
朝日酒造株式会社
「陽出る國の銘酒(ひいずるしまのせえ)」
全体的に形状や色の柔らかいデザインが多く集まった今回のアワードにおいて、黒地に金色の文字のグラフィックと、シャープで堂々としたデザインがひととき新鮮であったことから、優秀賞という評価につながりました。



ガラスボトルデザイン 優秀賞
アマタ株式会社
「森林ノ牛乳」
「牛乳はやはりガラスびんが良い」と、審査員一同が再認識させられた作品。素朴なたたかさに好感が持て、牛乳のおいしさを引き出している完成度の高いデザインが優秀賞という評価につながりました。



ガラスボトルデザイン 特別賞
沖縄県酒造協同組合
「琉球泡盛 360ml」
一目で「沖縄」を連想させるデザイン。さらにガラスびんは全て同一にも関わらず、ラベルとキャップのデザインだけでメーカーの特徴が表現されています。そのデザインによって伝わる「土着性」、メーカーを問わず繰り返し使用できると、「エコロジカルさ」が評価されました。



ガラスボトルデザイン 内田繁賞
ベストアメニティ株式会社
「ロハス焼酎十六雑穀セット」
「実際に、ひとつずつ手にとってみると、小さくとても持ちやすい。こうした肌で感じる馴染みやすがすがしいデザイン」としてよく考えられている」という評価から、内田繁賞に決定しました。



ガラスボトルデザイン 益田文和賞
株式会社セルフィユ
「バナラカフェ (90g:41種、140g:21種)」
「とてもシンプルかつ全て同じデザインのガラスびんだが、中身の色や素材の違いで、それぞれの顔が表現されている。ガラスびんは中身を美しく見せることができる素材ということに気づいた」という評価から、益田文和賞に決定しました。



ガラスボトルデザイン 佐藤卓賞
株式会社チェリオジャパン
「チェリオ(オレンジ・グレープ・メロン) 310ml NRビン」
「見た瞬間に懐かしい記憶がよみがえった作品。ガラスびんという素材とともに、独特の形状やグラフィックが人の心に残るということに気づいた。その大切さ、すばらしさを表彰したい」という評価から、佐藤卓賞に決定しました。



ガラスボトルデザイン クワッサン賞
招徳酒造株式会社
「本醸造 夏の戯れ・冬のきらめき」
「あたたかみのある形状、グラフィック、手触りの全てが印象的で、とてもかわいらしい。良い意味で日本酒らしくなく、見ているだけで楽しげであり、誰かにあげたいような作品」という評価から、クワッサン賞に決定しました。

ガラスびん デザインアワード 2008

2007年12月～2008年12月
までに発売された
ガラスびんを対象に
今秋から募集を
開始します。

詳しくは
www.glassbottle.org/
をご覧ください。